

「裏道・抜け道」には、いつも以上に 危険がいっぱい

新型コロナウイルスの感染拡大、外出自粛 お出かけできない子供が・・・多い今

- ◇住宅街を走行する場合は、「かもしれない」運転、「最徐行」運転で、事故防止◇
- ◇路上に、車が停まっていたら・・・『人が出てくるかもしれない』、危険予測運転◇
- ◇住宅街の交差点 相手は、止まらないかもしれません・・・最徐行しましょう◇

2020/4/30(木) 0:00

新型コロナウイルスの感染拡大により医療崩壊が懸念されているいま、外出自粛をしている方々も多いでしょう。

けれども、生活維持のためにクルマやバイクに乗って出かけなければならないこともあるのは当然のこと。

そこで僕らがやらなければならないのは、普段以上に安全運転に心掛け、事故の確率を少しでも減らさなければならない。

人身事故が起きて救急車を要請し、病院に担ぎ込まれるような事態になれば、ただでさえひっ迫している医療に負担をかけてしまうのだから……。

普段心掛けている僕の運転はズバリ、「裏道・抜け道はできるだけ使わない」ということだ。

幹線道路が渋滞していると、ついつい空いている道を探してしまいたくなる場所だが、そこをグッと我慢しようと考えている。

もちろん、住宅街にある我が家に入る際には裏道を使うことになるのだが、それ以外の状況では可能な限り太い道を通ることを心掛けている。

裏道・抜け道で事故に遭遇した場合、相手はクルマよりも交通弱者である自転車や歩行者である確率が跳ね上がる。

ワンミスで相手の命を奪いかねないリスクから少しでも遠ざかるには、そんな裏道を通らないようにするしかない。

実は免許取得直後、自宅まであとわずかという路地裏において、駐車車両の間から飛び出してきた小学生を跳ね飛ばしそうになったことがある。

右足を力いっぱい踏み込むだけで、何ひとつ対処するところができなかったあの瞬間を、僕はいまでも忘れられない。ハッキリ言ってトラウマだ。

以来、裏道をできるだけ避け、もしも通過する必要がある場合には、極力スピードを落とすことにしている。制限速度が30km/hならば、絶対にそれ以下でしか走らない。

とにかくスピードを抑え、万が一人身事故を起こしてしまったとしても、最小限の被害で抑える努力を続けている。

スピードが低ければ低いほど、事故を起こした際の被害は少ないのだから……。